

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

三区間交流事業

実 施 報 告 書

(平成30年7月24日～27日)



平成30年10月

目黒区・目黒区教育委員会

【目 次】

I	はじめに	1
II	三区間交流事業内容	
1	目的	2
2	主催者	2
3	日程	2
4	各区選手団及び中浪区代表団の構成	3
5	概要	5
6	まとめ	21
III	おわりに	22

【参考資料】

1	「三区間交流事業報告書」（目黒区選手団団長）	24
2	「交流レポート」（目黒区選手31名）	25

I はじめに

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和54年に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、2年後の昭和56年に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成3年度に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成22年度に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成23年に東城区と目黒区は改めて友好都市協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区の交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成22年度に中浪区から区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成25年には、目黒区と中浪区は「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換を開始したほか、平成26年には、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行うなど、交流を推進してきました。

区としては、友好関係にある東城区と中浪区との交流推進に向けて、文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、平成27年7月に東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないか提案を行い、東城区長から前向きな回答を得ました。その後、平成28年7月に東城区で行われた三区による実務者協議等を経て、翌平成29年7月に東城区において、目黒区・東城区・中浪区の三区による第1回目の三区間交流事業が実施されました。この事業では、三区の青少年が交流する種目としてバスケットボールが採用されました。三区の生徒が同じルールでスポーツを試し、一つのボールを通じてお互いを認め合う姿は、見る者に大きな感動を与えました。また、文化交流や同じテーブルで食事を共にすることで、草の根の友好交流が実現できたことは、大変意味のあることでした。その大会の場で東城区長から次年度の目黒区開催について打診があり、その後、平成29年12月に区長が中浪区を訪問した際には中浪区長からも同様の打診がありました。

平成30年3月に目黒区において、第2回目の実施に向けて三区による実務者協議及び意見交換が行われました。この三区間協議では、①次年度に次代を担う子どもたちによるスポーツ交流を行うこと、②今回の実施場所は目黒区とすること、③対象は中学校第2学年男子生徒とすること、④三区の選手で混成チームを作り、試合等を行うことなどが合意されました。

こうした経過を踏まえ、本年7月24日から27日にかけて、目黒区が初の開催区となり三区間交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

Ⅱ 三区間交流事業内容

1 目的

友好都市である中国北京市東城区及び友好交流覚書を取り交わした韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流及び文化交流事業を行う。

2 主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

3 日程

平成30年7月24日（火）から7月27日（金）までの4日間

月日	時間帯	内 容	場 所
7月24日 （火）	午前	・東城区・中浪区日本到着	—
	午後	・各区選手練習 ・中浪区代表団 訪問歓迎 ・中浪区代表団 区長訪問 ・歓迎夕食会	区立中央体育館 南口エントランス 区長応接室 ホテル雅叙園東京
7月25日 （水）	午前	・バスケットボール大会開会式 ・第1試合（目黒区対東城区）	区立中央体育館
	午後	・第2試合（目黒区女子チーム同士） ・第3試合（目黒区対中浪区）	
7月26日 （木）	午前	・第4試合（東城区対中浪区） ・混成チームによる交流 ・バスケットボール大会閉会式	区立中央体育館
	午後	・代表団・選手団訪問歓迎 ・文化交流（茶会）【選手団】 ・三区による意見交換 ・中浪区代表団 区議会訪問 ・送別交流会【選手団】 ・送別夕食会【代表団】	南口エントランス 茶室・和室 特別会議室 議長室 大会議室 香港園
7月27日 （金）	午前	・学校見学（施設・部活動） ・武道体験	区立第十一中学校
	午後	・中浪区 帰国	—

※東城区は7月28日（土）に帰国

<参考> 経費負担

ユニフォーム関連、看板類、パンフレット、記念品等7, 757千円余

※ 三区間の取決めにより、現地車両費、通訳士経費、夕食会経費は、目黒区側が負担。

4 各区選手団及び中浪区代表団の構成

(1) 目黒区

選手団(37名)

団 長 金子 弘樹 目黒区立第十一中学校長

団 員(指導教諭)

椿 一夫 目黒区立第八中学校主幹教諭

篠原 利恵 目黒区立第九中学校主幹教諭

中田 新 目黒区立東山中学校主任教諭

柿澤 祐太 目黒区立目黒中央中学校教諭

団 員(養護教諭)

菊地 昌子 目黒区立第八中学校主任養護教諭

菅谷 史子 目黒区立東山中学校養護教諭

選 手 目黒区内中学校第2学年男子生徒12名

学 校 名	氏 名
目黒区立第一中学校	和田上 瑛一郎
目黒区立第七中学校	羽田 琉十
目黒区立第八中学校	荻野 颯也
目黒区立第九中学校	大槻 拓也
目黒区立第十中学校	堀内 宏基
目黒区立第十一中学校	今井 心
目黒区立東山中学校	三笠 瑛史
目黒区立東山中学校	高田 司
目黒区立目黒中央中学校	寿美 仁一朗
目黒区立目黒中央中学校	平川 陽彩
目黒区立大鳥中学校	林 央士
多摩大学目黒中学校	三橋 隼人

目黒区内中学校第2学年女子生徒19名

学 校 名	氏 名
目黒区立第一中学校	松本 紗那希
目黒区立第一中学校	前田 芳子
目黒区立第七中学校	田中 茉穂
目黒区立第七中学校	宮本 凜
目黒区立第八中学校	岡崎 李映
目黒区立第八中学校	大城 加津子

目黒区立第九中学校	原田 彩那
目黒区立第十中学校	土生 結月
目黒区立第十中学校	橋本 怜奈
目黒区立第十一中学校	金澤 未久
目黒区立第十一中学校	岡森 愛
目黒区立東山中学校	高橋 茜
目黒区立東山中学校	矢嶋 華晏南
目黒区立東山中学校	児玉 凜
目黒区立目黒中央中学校	松添 芽生
目黒区立目黒中央中学校	慶 香海
目黒区立大鳥中学校	辻 ほのか
目黒区立大鳥中学校	類家 亜実
多摩大学目黒中学校	浅見 旬凜

事務局（４名）

竹内 聡子 文化・スポーツ部長
濱下 正樹 文化・交流課長
金元 伸太郎 スポーツ振興課長
堀江 弘治 教育指導課指導主事

（２）東城区

選手団（１７名）

東城区体育局副局长、他引率者４名、選手１２名

（３）中浪区

代表団（９名）

中浪区庁長、中浪区議会議長、他７名

※ 中浪区庁長他１名は２５日（木）に帰国

選手団（１５名）

引率者３名、選手１２名

5 概要

(1) 第1日目(平成30年7月24日)

ア 中浪区代表団 区長訪問

- ① 日時 平成30年7月24日(火) 午後3時30分から午後4時まで
- ② 場所 区長応接室
- ③ 参加者 【中浪区】柳 昶基(リュウ ギョンギ) 中浪区庁長
曹 喜鍾(チョウ ヒジョン) 議長ほか7名
【目黒区】区長、副区長、教育長ほか3名

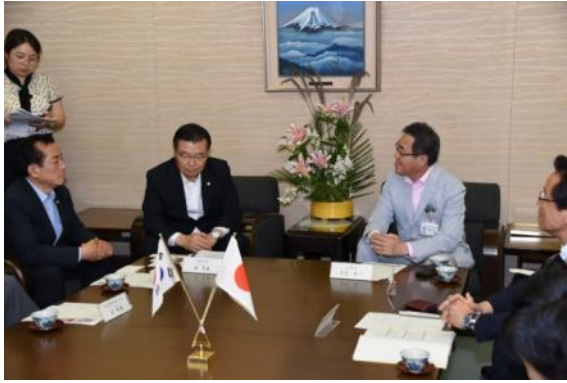
午後3時、目黒区総合庁舎南口エントランスに大勢の職員が歓迎する中、ソウル特別市中浪区柳 昶基(リュウ ギョンギ) 区庁長及び曹 喜鍾(チョウ ヒジョン) 議長をはじめとする9名の中浪区代表団が到着しました。

区長応接室で行われた懇談では、記念撮影の後、はじめに目黒区長から「韓国ソウル特別市中浪区から、柳 昶基(リュウ ギョンギ) 区庁長及び曹 喜鍾(チョウ ヒジョン) 議長ほか7名の代表団の目黒区訪問を心から歓迎します。」と歓迎の意を伝えました。続けて、これまでの中浪区との交流の経過や三区間交流事業が開始された経緯などを伝えた後、「三区間交流事業は開催区を輪番で行っており、来年は順番では中浪区での開催となります。私としてもぜひ中浪区で実施したいと思っています。また、中浪区とは友好交流の覚書を締結しているが、今日の出会いをきっかけとして、これまでの交流を一歩進めたい。」と今後の両区の交流の推進について提案を行いました。

中浪区の柳 昶基(リュウ ギョンギ) 区庁長は、「今日は大勢の目黒区職員の熱烈的な歓迎を受け心から感激しています。先月区庁長に就任後、このような形ですぐに友好関係の目黒区に来ることができて非常に嬉しく思っています。目黒区には初めて訪問しますが、東京の街はどこへ行っても綺麗で整備されています。中浪区の街も目黒区と同じように整備していきたいので、青木区長にコツを教えてください。私たちとしては、来年、中浪区でバスケットボール大会開催の準備をしています。今回の目黒区での開催を契機として、三区の友好交流を継続していきたいです。」と応じました。

続いて、中浪区曹 喜鍾(チョウ ヒジョン) 議長は、「2015年に副議長の時に目黒区を訪問しましたが、青木区長に再会できて感激しています。三区での交流を通じて、目黒区と中浪区の交流はより良い関係になると確信しています。来年、中浪区で開催される本事業にも期待をしています。中浪区では5月に薔薇祭りが開催されますが、ぜひ青木区長にお越しいただきたいです。」と述べられ、今後の両区の交流推進に向けた懇談となりました。





イ 歓迎夕食会（区長主催）

【式典】

- ① 日 時 平成30年7月24日（火）午後6時から午後6時30分まで
- ② 場 所 ホテル雅叙園東京 4階「飛鳥」
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団

【目黒区】区長、副議長、生活福祉委員会正副委員長、副区長、教育長ほか歓迎夕食会の式典は、三区の選手団、代表団、区関係者及び関係団体等の出席者が一堂に会し始まりました。

はじめに、目黒区長から、「三区の固い友情で結ばれた思いが、自治体間の草の根交流として実を結び、このような素晴らしい時間を共に過ごすことができることを大変喜ばしく思っています。この三区間交流事業が、次代を担う三区の子どもたちにとりまして、素晴らしい経験になり、今後の三区の友好交流の懸け橋となりますことを期待しています。」と挨拶がありました。

続いて、史 志剛（シ ジー ガン）東城区体育局副局長から、「未来に向かい、手をたずさえて力を尽くし、三区の経済、文化、社会、教育の各分野における交流と協力を一層推進し、日中韓の三区の友好関係を共にますます発展させていきましょう。」と挨拶がありました。

最後に、柳 昶基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長から、「今回の目黒区・東城区・中浪区の三区の青少年バスケットボール交流戦が盛大に開催され、三区間の友好交流と協力増進にとって大きな礎となるものと思います。今後も目黒区・東城区・中浪区三区の友情が末永く続くことを希望します。」と挨拶がありました。

その後、会場内の参加者が「乾杯！」と声を揃え、和やかな雰囲気です夕食会が始まりました。





【夕食会（選手団）】

- ① 日 時 平成30年7月24日（火）午後6時30分から午後7時30分まで
- ② 場 所 ホテル雅叙園東京 4階「飛鳥」
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区選手団、目黒区選手団

それぞれのテーブルに各区の生徒たちが同席し、食事を共にしました。

はじめは、他国の同世代との交流に緊張している様子でしたが、時間が経つにつれて、ジェスチャーを交えながら会話が始まり、互いに自己紹介するなど、少しずつ交流を深めようとしていく姿が見られました。

また、東城区・中浪区の生徒たちは、お寿司やそばなどの日本食を目の前に嬉しそうな表情を浮かべ、楽しそうに食事をしていました。

食事会が終了し東城区と中浪区が会場を出る際は、目黒区生徒が出口付近に並び、笑顔でハイタッチをして見送りをする姿が見られました。生徒からは「明日から始まるバスケットボール大会ではよろしく！」という雰囲気が感じ取れました。



【夕食会（代表団）】

- ① 日 時 平成30年7月24日（火）午後6時30分から午後8時まで
- ② 場 所 ホテル雅叙園東京 3階「カシオペア」
- ③ 参加者 **【東城区】** 史 志剛（シ ジー ガン） 体育局副局長ほか1名
【中浪区】 柳 昶基（リュウ ギョンギ） 区庁長及び曹 喜鍾（チョウ ヒジョン） 議長ほか7名
【目黒区】 区長、副議長、生活福祉委員会正副委員長、副区長、教育長、第十一中学校長、教育委員、関係団体ほか

各区代表団は、3階に会場を移しての歓迎夕食会となりました。はじめに目黒区長から「東城区と中浪区の皆様方の目黒区への訪問に最大限の歓迎の意を表します。この三区間交流事業は、私が2015年に東城区を訪問した際、当時の東城区長に青少年による交流事業実施を提案し、中浪区にも同意いただき実現に向けて動きだしたもので、昨年第1回目を東城区で、そして今回第2回目を目黒区で開催できることは感無量です。この事業が実現できたことは、東城区・中浪区の皆様方のご理解とご協力があったからで、三区の交流への強い思いを再認識することができました。今後も三区間交流事業と三区の友好交流が、万里の長城のように長く強固に続き、漢江（ハンガン）川のように長く穏やかに続く

よう願っています。」と述べて、夕食会は始まりました。

区の関係団体からは、目黒体育協会、目黒区バスケットボール連盟、目黒区剣道連盟、東京都日中友好協会、目黒区日中友好協会、目黒日韓親善協会及び在日本大韓民国東京目黒支部からも参加いただき、和やかな雰囲気が出された和食懐石とともに、東城区・中浪区との友好交流の時間を楽しむひと時となりました。



(2) 第2日目(平成30年7月25日)

ア スポーツ交流開会式

- ① 日時 平成30年7月25日(水) 午前9時から午前9時40分
- ② 場所 区立中央体育館
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団

【目黒区】区長、副議長、生活福祉委員会正副委員長、副区長、教育長、第十一中学校長、教育委員、関係団体ほか

交流事業2日目は、バスケットボール開会式から始まりました。

はじめに、目黒区長から「三区の55名の生徒に2つお願いをします。ひとつは、全力を出し切って、フェアプレーをすること。もうひとつは、スポーツに勝敗は大切なことですが、もっと大切なことは、チーム一丸となること、協力すること、相手を称えること、このことを忘れないでプレーしてほしいと思います。」と挨拶がありました。

続いて、史志剛(シジーガン)東城区体育局副局长より、「団結、友好、進歩のスポーツの精神を発揚し、自分の力を出し切り、スポーツマンシップを体現し、深い友情を結んで、この大会をすばらしいものとしてくれることを願います。」と挨拶がありました。

続いて、柳 昶基(リュウギョング)中浪区庁長から、「選手の皆さん、皆さんが今日の大会の主人公です。この間磨きあげてきた技量を、ここ日本の目黒区で思う存分発揮してください。そして、競技の勝敗を離れて、ゲームを楽しみ、よい思い出を大切にしてくれることを期待します。」と挨拶がありました。

その後、各チームの代表者から挨拶がありました。

目黒区男子チームの代表挨拶は、キャプテンである第十一中学校の今井心さんが務め、「大好きなバスケットボールを通じて、より深い交流を目指しましょう。」と挨拶を行いました。

女子チーム代表挨拶は、第八中学校の大城加津子さんが務め、「区の代表としての誇り

を持って、最後まで諦めずにプレーしましょう。」と挨拶を行った後、東城区代表選手、中浪区代表選手も挨拶して、開会式は終了し、バスケットボール大会の幕が上がりました。



イ 第1試合（目黒区 対 東城区）

- ① 日 時 平成30年7月25日（水）午前10時から午前11時30分まで
- ② 場 所 区立中央体育館

目黒区の選手は背が高い東城区の選手に圧倒されていました。目黒区選手と東城区選手が並びあいさつを交わす様子を見ると、東城区には同年代の中学生とは思えないほど大きな体の選手が多くいました。

試合が始まると、ゴール下では長身の東城区の選手が多くボールを拾っていました。細かくパスを回して攻める目黒区の選手は、第2ピリオドからはシュートも入りだしました。東城区の選手は長距離移動の疲れがあるのか、第2ピリオド以降は第1ピリオドの勢いは少しずつ弱まってきたようでした。

ハーフタイムまでは、目黒区23点、東城区44点と大差になっていました。点差は開きましたが目黒区の選手は後半も力を緩めることなく攻め、パスをつなぎ、自分たちができるバスケットボールを続けました。第4ピリオドだけを見ると目黒区23点、東城区23点と互角の戦いをしていました。

試合の結果は目黒区61点、東城区92点と敗れてしまいましたが、目黒区の選手は点差が開いても諦めず前向きに最後まで力を出し切る姿勢は素晴らしかったです。



ウ 第2試合（目黒区女子A 対 目黒区女子B）

① 日 時 平成30年7月25日（水）午後1時から午後2時30分まで

② 場 所 区立中央体育館

第2試合は目黒区的女子選手同士の試合でした。

昨年度、東城区で行われた本事業では、女子の参加はありませんでした。今回も、東城区、中浪区は男子のみの参加となったことから、開催区のみ目黒区からは19人の女子選手が出場し、2チームに分かれ試合をしました。

日頃はチームメイトであったり、一緒に練習をしたりしていた選手が、この試合では相手チームとして戦いました。いつもより広いコートで試合時間も長く、交代選手も少ないことから、女子の選手にとっては持久力が必要な試合になりました。女子選手たちはこれまでの練習の成果を発揮するように、目黒区の代表として試合をしていました。これまでの練習の様子を見ていると、AチームとBチームでどちらかが一方的に強いといった力の差はありませんでした。だからこそ、この日の試合はどちらが勝つか分からず、均衡した試合展開が期待できました。

試合開始後、両チームともに緊張感からかシュートは打ってもなかなかゴールが入らず、得点につながらない展開が続いていました。第1・2ピリオドの前半を終えたところでAチーム30点、Bチーム35点と均衡した展開でした。ハーフタイムでは両チームともに円陣を組み、仕切り直して後半に挑みました。

後半になり、ゴール下でのボールの取り合いが激しくなり、パスカットからゴールするようなプレーも目立つようになりました。

試合結果はAチーム60点、Bチーム70点と10点差がついたものの、両チームともに、最後まで全力で戦い、力を出し切った試合になりました。



エ 第3試合（目黒区 対 中浪区）

① 日 時 平成30年7月25日（水）午後3時から午後4時30分まで

② 場 所 区立中央体育館

第3試合は、目黒区と中浪区との試合でした。大会初日は、渡航の影響を考慮して東城区と中浪区は1試合のみとしたことから、目黒区はこの日1日で2試合を行うため、選手にとっては大きな負担となり、疲労が残る中での試合開始となりました。

第1ピリオド、互いの戦術の探り合いから始まりました。中浪区はゴール下でのディフェンスを重視し、目黒区の選手はなかなかゴール下に入り込んでシュートを打つことができませんでした。少し離れた距離からシュートを打ちますが入らず、身長が高い中浪区の選手にリバウンドボールを拾われて、速攻される時間が続き、点差が開いてしまいました。目黒区の選手にとっては経験したことのない高さと速さを実感させられてしまいました。

第2ピリオド以降は、少しずつ相手の戦略にもあわせて戦いができるようになりました。パスカットから速攻したり、少し距離がある位置からフリーな状態でシュートを打つなど攻め方を変えることによってシュートが入るようになってきました。

第4ピリオドでは両チームともに疲れがたまっている中、目黒区の選手は最後の力を出しきっていました。普段より広いコートで、東城区と中浪区との2試合、1日に10分を8ピリオド行う最後の10分間は、12人の目黒区の男子選手にとってはきつい時間であったと思います。しかしながら最後まで走り、プレーを続けた結果このピリオドのみに限れば、18対22と健闘しました。

試合結果は、目黒区37点、中浪区89点となりましたが、1日2試合とハードスケジュールの中、諦めない姿勢を最後まで貫く姿を見ることができ、選手にとっても大変貴重な経験になったと思います。



(3) 第3日目(平成30年7月26日)

ア 第4試合(東城区対中浪区)

① 日時 平成30年7月26日(木)午前9時から午前10時30分まで

② 場所 区立中央体育館

バスケットボール大会最後の試合は、東城区、中浪区ともに最初から白熱した試合になりました。

第1ピリオドでは、中浪区の勢いが勝っていました。お互い厳しいディフェンスの中、シュートは打つがゴールがなかなか入らない試合展開が続く、ディフェンスによるファールの回数が増え、フリースローによる得点が続きました。第1ピリオドは東城区11点、中浪区14点でした。

第2ピリオド以降は、試合の流れは東城区に変わっていききました。両チームともにゴール下での厳しいディフェンスは変わらず続きましたが、東城区の選手が次第にゴール下でシュートを打つ回数が増え、確実に点数を重ねていきました。また、選手だけではなくコーチ陣の激しい指示が飛んでいました。競り合いの中の試合となり、互いの言葉での激は、国際交流試合をやっていることを実感し、応援していた目黒区の選手にとっても刺激的であったと思われます。

試合結果は東城区76点、中浪区52点となり、冷静に自分たちのプレーを最後まで続けた東城区が中浪区を破りました。



イ 混成チームによる交流

① 日時 平成30年7月26日(木)午前10時45分から11時30分まで

② 場所 区立中央体育館

バスケットボールを通じて、選手たちがより交流を深めることができる取組として、各区の枠を超えて、リラックスした雰囲気の中でゲームを行うことを目的として、各区混成チームを6チーム作り、フリースローによる交流を行いました。

チームごとに話し合い、投げ役と拾い役に分かれて、1分間に何ゴールが入るかを競い合いました。言葉は通じなくともジェスチャーで意思を伝え、バスケットボール競技を通してお互いの距離が縮まり、この後のグループでの交流を始めるきっかけにすることができました。フリースローの結果については、この日の夕食時に発表し、グループごとに盛り上がるきっかけになりました。

バスケットボールの試合時間が長引いたため、フリースロー以外に準備していた混成チーム対抗大縄跳びは実施ができず残念でしたが、フリースローだけの短い時間の中でも、

生徒たちは充実した交流をすることができました。



ウ 閉会式

- ① 日 時 平成30年7月26日（木）午前11時30分から午後0時10分ま
- ② 場 所 区立中央体育館
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団

【目黒区】区長、副議長、生活福祉委員会正副委員長、副区長、教育長、第十一中学校長、教育委員、関係団体ほか

閉会式では、はじめに目黒区長から「2日間にわたる熱いバスケットボールの試合を終え、充実感と心地よい疲労感を感じているのではないのでしょうか。私も試合をずっと見ていましたが、試合後に選手同士が肩をたたきあい、健闘を称え合う姿を見て、心から感動しました。選手の皆さんは本当にお疲れ様でした。」と挨拶がありました。史 志剛（シジー ガン）東城区体育局副局长、曹 喜鍾（チョウ ヒジヨン）中浪区議会議長からそれぞれ挨拶がありました。その後、本大会における優秀選手の発表が行われました。優秀選手は各区男子及び目黒区女子選手から1名ずつ選ばれました。

目黒区男子優秀選手には、第八中学校の荻野颯也さんが選ばれ、「素晴らしい賞をいただけて嬉しいです。この大会で得た経験を今後活かしていきたいです。」と感想を述べました。

続いて、目黒区女子優秀選手からは、大鳥中学校の辻ほのかさんが選ばれ、「練習で高めたチームワークを活かすことができて楽しかったです。」と感想を述べました。

続いて、東城区チーム及び中浪区チームの優秀選手の発表が行われ、それぞれ受賞した感想を述べました。また、優秀賞を受賞した4名には記念品として、目黒区長からトロフィーの贈呈も行われました。

閉会式後には記念撮影が行われ、試合が終わり緊張がほぐれた選手の顔には笑みが溢れており、2日間にわたり行われたバスケットボール大会は、今後もこのようなスポーツ交流を継続していくことの大切さを再認識し、滞りなく終了しました。



エ 訪問歓迎

① 日 時 平成30年7月26日（木）午後3時から午後3時5分まで

② 場 所 総合庁舎 南口エントランス

スポーツ交流が終わり文化交流を行うため、昼食後、三区の選手団・代表団は総合庁舎へ向かいました。

南口エントランスには、多くの区職員及び区議会議員が集まり、三区の選手らをお大歓迎しました。日本、中国、韓国の三カ国の国旗が振られる中、お揃いの三区間オリジナルポロシャツを着用した三区の生徒55名は、笑顔で歩いていました。



オ 三区による意見交換

① 日 時 平成30年7月26日（木）午後3時10分から午後3時50分まで

② 場 所 特別会議室

③ 参加者 【東城区】史 志剛（シ ジー ガン）体育局副局长ほか1名

【中浪区】曹 喜鍾（チョウ ヒジョン）議長ほか6名

【目黒区】区長、議長、議会運営委員会正副委員長、生活福祉委員会委員長、副区長、教育長、第十一中学校長、文化・スポーツ部長、文化・交流課長、スポーツ振興課長

三区の中学生がお茶による文化交流を行っている時間に、三区間交流事業の目的のひとつである、三区の自治体代表による今後の交流の推進に向けた意見交換を行いました。

はじめに、目黒区長から「東城区・中浪区の代表団の皆様方、目黒区役所へお越しいただき心から歓迎します。同じ世代の子どもたちによるスポーツ交流が無事に終了し、皆様方のご尽力に感謝申し上げます。2015年に私が東城区を訪問した際に提案したこの三区間交流事業が、昨年東城区で、本年目黒区で開催され、子どもたちの交流を通じて三区の交流の推進を図ることができました。来年は、中浪区での開催を提案し、東城区・中浪区の皆さんに再会できることを心から期待しています。また、この交流を通じて、三区の自治体の交流もより一層推進されることを願っています。」と今回のホスト国として、次年度の中浪区での三区間交流事業の開催と、更なる今後の友好交流を深める提案を行いました。

次に、東城区史 志剛（シー ジー ガン）体育局副局长は、「今回の子どもたちによるスポーツを通じた目黒区での交流は大成功であります。試合の結果は重要ではなく、お互いを理解し交流を深めることができたことに意義があります。2015年に東城区を訪問された青木目黒区長が提案したこの事業が円滑に実施できていることに感謝します。来年は中浪区で開催されますが、その後の交流は違う分野での交流を提案したいと思います。例えば、芸術文化では、民族舞踊、楽器、管弦楽、お茶などは中国ではあまり知られていないため効果的であり、また、スポーツであれば、剣道やテコンドーなどもいいと思います。2017年に東城区から日中韓で青少年の交流に関する協定を提案しましたが、未来の子どもたちの交流が国の未来を示すものと考えているため、ぜひ進めていきたいと考えています。東城区としては、来年3月か4月に中浪区に調査団を派遣する用意があるため、中浪区での三区間交流事業が実現するよう三区の実務者で協議をしていきたいと思えます。」と述べました。

続いて、中浪区曹 喜鍾（チョウ ヒジョン）議長は、「柳（リュウ）区庁長が公務のため昨日帰国しましたので、私からひと言申し上げます。目黒区で開催されたバスケットボール大会が怪我無く円満に終了できたことを心から嬉しく思っています。子どもたちの熱いプレイに胸が一杯になりました。今回は目黒区から女子チームが出場し、また、お茶会の開催など多様な交流を展開されていることは、非常に意味があることと思います。もっと様々な交流メニューがあってもよいと思っています。今後は、スポーツだけではなく様々な分野で交流を推進していきたいと考えています。」と述べました。

三区の代表が発言した後、フリートークによる意見交換が行われ、来年の中浪区での開催に向けては、各区の代表の発言からも三区の方向性は同じであることを確認しました。また、来年の中浪区での開催に向けて、来年3月か4月に目黒区と東城区と一緒に中浪区を訪問し事前調査を行うことが有効であることや、目黒区議会からは、三区間交流事業を全力で支援していくことが述べられました。加えて、東城区からは、三区間交流事業を様々なメニューで実施することも大切ですが、交流を継続していくことが一番重要である

ことなどの発言がありました。

最後に目黒区長から、「中浪区との友好交流の覚書を更に深めていくため、中浪区の友好都市である東城区にも協力・調整をお願いしながら、目黒区と中浪区の友好都市協定の締結に向けて、早い時期に検討を開始したいと考えています。」と伝えると、中浪区曹喜鍾（チョウ ヒジョン）議長は、「協定締結に向けた方向性は同じであるため、持ち帰って柳（リュウ）区庁長と相談し、協定が締結できるように最善を尽くしたいと考えています。」と応じ、目黒区で初めて行われた三区の代表による意見交換は終了しました。



カ 交流お茶会

- ① 日時 平成30年7月26日（木）午後3時15分から午後4時30分まで
- ② 場所 目黒区総合庁舎1階 はぎの間
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区選手団、目黒区選手団

交流お茶会は、目黒区総合庁舎1階のはぎの間で行われました。お茶会は、午前中に行った混成チームによる交流の際に編成されたチームに基づいて、A～C、D～Fの2つのグループに分かれて行われました。1つのグループがお茶会を行う一方で、もう1つのグループは「目黒十五庭（屋上庭園）」及び区議会の議場を見学し、交代制で行われました。

茶道といえば、一般的には正座をしてお茶をいただきますが、今回は椅子に腰掛けたままお茶をいただく立礼式という様式で行われました。違う区同士の生徒が2人掛けになって座りました。

お茶会は目黒区華道茶道連盟の協力のもと行われました。はじめに、目黒区華道茶道連盟から「まずは和菓子を味わってください。このあとに、お茶をいただきます。和菓子の甘さでお茶を苦いと感じないか、それとも苦いと感じるか、どちらになるでしょうか。」と説明があり、生徒全員に和菓子が配られました。生徒たちは、懐紙と呼ばれる和紙に載せられた和菓子を楊枝を使って食べることに苦戦している様子でしたが、慣れると器用に使って食べていました。

次に、お茶をいただきました。東城区、中浪区の生徒たちのなかには、初めてお茶を飲む生徒も多く、「苦い」と笑いながら反応する生徒もいました。

最後は、目黒区華道茶道連盟の方々と全員で集合写真を撮影し、和やかな雰囲気でお茶会は終了しました。バスケットボールで交流を深めた生徒たちは、初日の歓迎会より打ち解けている様子で、お互いを理解しようとする姿や積極的に交流を図ろうとする姿勢が見られました。

一方、十五庭及び区議会の議場の見学では、はじめに十五庭を見学しました。

十五庭では、風によって木などが倒れない工夫がされていること、重量軽減のために軽石が使用されていること、野菜畑があり野菜を栽培していること、季節によって蝶や鳥など小さい生き物の憩いの場となることなど、様々な工夫や楽しみがあることを学びました。

次に、区議会の議場を見学しました。生徒たちは初めて見る議場の雰囲気に対し少し気持ちが高ぶっている様子でした。議場についての説明の後には、生徒たちは特別に議長席に座らせてもらいました。議長席に座った生徒は、笑みを浮かべながら、他の生徒に向けて手を振るなど、普段体験することができない貴重な体験をしました。





キ 中浪区代表团 区議会訪問

- ① 日 時 平成30年7月26日（木）午後4時30分から4時50分まで
- ② 場 所 目黒区議会 議長室
- ③ 参加者 【中浪区】曹 喜鍾（チョウ ヒジヨン）区議会議長ほか6名

曹 喜鍾（チョウ ヒジヨン）中浪区議会議長をはじめとする中浪区代表团7名が目黒区議会を訪問しました。

おのせ康裕目黒区議会議長からは、中浪区代表団の訪問に歓迎の意を申し上げ、目黒区と中浪区との友好交流がさらに発展するようにと挨拶をしました。

目黒区議会では、日韓友好目黒区議員連盟を設立し、日韓両国の友好親善を推進するため様々な活動を行っており、2012年5月と2016年10月の2度にわたり訪問団を結成し中浪区を訪問したこと、訪問の際には中浪区の皆様からの心のこもった温かいおもてなしを受け、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができたこと、また、そうしたご縁もあり、三区間の交流事業が実現し、三区の中学生同士がスポーツや文化を通して交流を深めることができ、三区の友好の進展に大きな成果があったことなどの意見交換が行われました。

ク 送別交流会【選手団】

- ① 日 時 平成30年7月26日（木）午後5時から午後6時30分まで
- ② 場 所 大会議室
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区選手団、目黒区選手団

送別交流会は、目黒区総合庁舎大会議室で行われました。

はじめに、江戸太神楽丸一仙翁社中による「獅子舞」の披露で交流会が始まりました。獅子舞に頭を噛まれると健康に育つという伝えがあることから、獅子舞は生徒たちの頭を噛んで回りました。

続いて、目黒区長が、「生徒の皆さんは、勝敗よりもすばらしい仲間や友情を得ることができたと思います。この友情の輪を絶やさないように、皆さんの後輩たちに来年に向けてバトンタッチしてください。そして、5年後、10年後と交流が継続していくことを心から願っています。皆さんと一緒に過ごす最後の夜の食事の時間を、ゆっくり楽しく過ごしてください。」と挨拶した後、歓迎夕食会と同様に、目黒区、東城区、中浪区の生徒たちが同テーブルを囲んで食事が始まりました。会場には、特別に作られた屋台で寿司職人

がその場でにぎる寿司がふるまわれるなど、日本料理を中心とした食事を楽しんでいました。

会の中盤には、混成チームで行ったフリースローによる交流の結果発表とチームごとによる写真撮影を行いました。フリースローの得点が同点1位のチームがあったため、急遽チーム全員によるじゃんけん大会による優勝決定戦が行われました。言葉が違っていても、じゃんけんは万国共通のようで、会場が一体となって盛り上がりを見せました。

会の最後に、第一中学校の前田芳子さんが代表で挨拶を行いました。前田さんは、「国境を越えたフェアプレーを見ることができ、温かい気持ちになりました。また、いつもの試合では見ることができない、かっこいいプレーも見ることができ、楽しかったです。今回の交流によって、三区間の仲がより深まったと思います。今後もこのような交流が続けば良いと思います。」と述べ、送別夕食会は和やかに終了しました。



ケ 送別夕食会【代表団】

- ① 日 時 平成30年7月26日（木）午後6時から午後8時まで
- ② 場 所 香港園 2階「大鵬の間」
- ③ 参加者 【東城区】史 志剛（シ ジー ガン）体育局副局長ほか1名
【中浪区】曹 喜鍾（チョウ ヒジョン）議長ほか6名
【目黒区】区長、副議長、生活福祉委員会正副委員長、副区長、教育長、第十一中学校長、教育委員、関係団体ほか

目黒区長、目黒区議会議長共催の送別夕食会は、東城区と中浪区の代表団をお招きして香港園で行われました。

はじめに、おのせ康裕目黒区議会議長からは「三区間での中学生のスポーツ・文化交流が大きな成果をあげて終了できたことに感謝し、三区の子どもたちが交流を深めることができたことは、未来を担う子どもたちの成長、そして、三区の友好の進展に大きな成果が

ありました。」と挨拶をし、続いて目黒区長からは「子どもたちは交流を通じてすぐに打ち解け、英語やジェスチャーを交えてコミュニケーションを図っていて、言葉や文化は異なるが、同じアジアに住む次代を担う子どもたちの交流は、大変意義がありました。来年は中浪区での開催を強く希望します。」と挨拶がありました。その後、目黒区長から挨拶があり、史 志剛（シ ジー ガン）東城区体育局副局長、曹 喜鍾（チョウ ヒジョン）中浪区議会議長からもそれぞれ送別夕食会開催への感謝と三区間の友好関係が更に深まるようにとの挨拶があり、和やかに夕食会は始まりました。

歓談中は、言葉が通じない中、通訳を交えながら今後の三区間の交流等について意見交換を行いました。

送別夕食会には、目黒体育協会、目黒区剣道連盟、目黒区国際交流協会、目黒区華道茶道連盟、目黒区日中友好協会、在日本大韓国民団東京目黒支部からもご参加いただき、三区の更なる友好交流の発展を祈念して、送別夕食会が終了しました。



(3) 第4日目（平成30年7月27日）

ア 学校見学

- ① 日 時 平成30年7月27日（金）午前9時30分から午前10時まで
- ② 場 所 区立第十一中学校
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団

東城区選手団、中浪区代表団・選手団が第十一中学校に到着すると、第十一中学校長をはじめ第十一中学校の教職員や生徒、そして目黒区選手団が明るく迎えました。

選手達は武道場へ案内され、はじめに第十一中学校についての紹介が行われました。スライドを使い、第十一中学校の校歌がBGMで流れる中、第十一中学校の教育目標や1日の学校生活の流れ、部活動や学校行事などの様子が紹介されました。

スライドによる学校紹介の後は、吹奏学部による演奏が行われました。演奏前には、吹奏楽部員による挨拶があり、通訳士を通じずに生徒が中国語・韓国語を話し挨拶を行いました。挨拶が終わると、「天空への挑戦」、「小さな世界」、「エルクンバンチェロ」の計3曲が演奏され、鑑賞した生徒たちは、間近で行われるダイナミックな演奏に聞き入っていました。



イ 武道（剣道）体験

- ① 日 時 平成30年7月27日（金）午前10時15分から午前11時30分まで
- ② 場 所 区立第十一中学校
- ③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区選手団

学校訪問の後は、日本の伝統文化である剣道の体験を行いました。

剣道体験を行うにあたっては、目黒区剣道連盟の方々に加え、第十一中学校の剣道部員及び第十一中学校剣道部卒業生5名（現在、高校生）にも協力いただきました。

はじめに、剣道についての歴史や礼儀作法等の基本知識を学んだ後、剣道部員等による素振り等の実演や模擬試合を見学しました。模擬試合の迫力ある試合を目の前に、生徒たちは驚いている様子でした。

中浪区代表団・選手団は、帰りの飛行機の都合上、ここでお別れをすることになりました。生徒たちは、別れの際には笑顔で手を振り合う様子が見られ、4日間という短い時間ではありましたが、言葉や文化の違いを乗り越えて築き上げられた深い友情が感じられました。

その後、東城区生徒は実際に竹刀を持ち、素振りの体験を行いました。竹刀を振り下ろす際は少し恥ずかしさがあり、小さい声ではありましたが「メーン」と声を出して行っていました。その後は、東城区生徒12名と目黒区女子生徒数名が、防具を着用した剣道部員に向かい、面を入れる体験をしました。相手は防具を着けているとは言え心配があったのか、少し遠慮がちでしたが、元気よく面を入れ、笑顔を交えながら剣道を体験していました。



6 まとめ

目黒区で実施した第2回目となった目黒区・東城区・中浪区との三区間交流事業については、4日間の行程を、無事に概ね予定通り実施することができました。

今回は、昨年の実施後の課題等を踏まえ、バスケットボール大会によるスポーツ交流だけではなく、交流内容に日本の伝統文化を取り入れることや、三区の中学生が交流しやすい環境づくり等に努めました。

スポーツ交流では、言葉や文化の異なる三区の中学生が、バスケットボールを通じて、同じルールの下、全力を尽くしチーム一丸となって戦うことで、交流を深め、お互いを理解するきっかけとなるなど、参加した中学生にとって貴重な経験となりました。また、リラックスした

雰囲気です。三区の男女混成チームによるミニゲーム（フリースロー）を実施したことで、交流の輪がより広がったと考えています。

文化交流では、日本の伝統文化であるお茶や剣道を体験し、また、中学生同士の送別交流会では日本食や伝統芸能を体験するなど、日本の伝統文化に触れることで異文化理解を深める貴重な機会となるとともに、目黒区の生徒は自国の伝統文化を再認識する機会となりました。

また、今回は初めて女子生徒（目黒区のみ）が全行程に参加しました。バスケットボール交流では白熱した紅白戦で会場を盛り上げるとともに、文化交流なども男子とともに参加することで、相互理解が深まり、三区の生徒たちにとっても充実した内容になることを確認しました。

今回の事業では三区の中学生同士による文化交流や、女子生徒の参加など前回の大会には無かった要素を含めたうえで、無事に大会を終えることができたのは大きな成果であったと考えています。しかしながら、東城区・中浪区の子女子生徒の参加が無かったことや、目黒区チームの事前の練習機会が十分に確保できなかったことについては、今後の課題として認識し、次年度以降の実施に当たっては、より一層充実した内容となるように三区で協議しながら取り組んでいきます。

本事業の実施により、中学生による交流を通じて東城区及び中浪区とより一層の交流を図ることができました。将来的には青少年を含めた住民同士の交流が発展・推進していくよう、取組を継続していきたいと強く願う次第です。

Ⅲ おわりに

昨年、第1回が行われた目黒区・東城区・中浪区による三区間交流事業は、今回目黒区での実施により、事業自体が軌道にのったことに加えて、友好交流がさらに一歩前進するというすばらしい結果となりました。

本事業の実施にご協力いただいた、東城区、中浪区政府関係者に対して、改めて御礼を述べるとともに、心から敬意を表したいと思えます。

また、今年はホスト国として事業を成功に導くために、目黒体育協会、目黒区バスケットボール連盟、目黒区剣道連盟、東京都中学校体育連盟、目黒区華道茶道連盟、東京都日中友好協会、目黒区日中友好協会、目黒日韓親善協会及び在日本大韓国民団目黒支部の皆様から多大なる協力をいただきました。この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

また、今回行われた三区の意見交換の中で、来年度の本事業は中浪区で開催することを確認していることから、今後、三区の実務者で具体的な協議を行い、議会などを含めた関係機関とも調整しながら進めていく必要があると考えています。

【参考資料】

1 「三区間交流事業報告書」

目黒区選手団 団長

2 「交流レポート」

目黒区選手団 選手31名（男子12名、女子19名）

1 三区間交流事業報告書

三区間交流事業 目黒区選手団団長 金子 弘樹

(目黒区立第十一中学校長)

昨年7月、第1回三区間交流が北京市東城区の熱烈な歓迎と丁寧な対応、そしてソウル市中浪区のご理解とご協力によって開催され、同じ時代に東アジアに住む三区の生徒たちが国際交流の第1歩を踏み出した。今年は、7月24日から27日までの4日間、目黒区がホスト区となって目黒区で第2回三区間交流を開催し、3歩目につながる確かな2歩目を残すことができた。

交流のメインであるスポーツ交流の日中韓青少年バスケットボール大会は目黒区立中央体育館で開催された。今回は、三区の12名ずつの男子チームに加え、目黒区のみ選抜された女子の2チームが参加し、会場は昨年とは異なる装いと雰囲気となった。試合は、男子3チームのリーグ戦と女子2チームのエキシビジョンマッチの形式で行われたが、どの試合も全力プレーと最後まであきらめない気持ちで挑み続ける姿勢が見られた。また、1つのボールをチームで追いつける姿に「バスケットボールが大好き」・「バスケットボールができる喜び」など一人一人の強い思いが表現されていた。目黒区の男子チームは、東城区と中浪区それぞれのチームの技術やスピード、高さに圧倒され、残念ながら勝利を収めることはできなかったが、両チームの関係者からは、目黒区の選手一人一人の個人技やパスワークを中心とするチーム力は他の2チームに勝るものがあったと温かく心強い評価をしていただいた。

もう一つの柱である文化交流では、茶道と剣道を体験した。目黒区総合庁舎内にある和室でいただいたお抹茶と和菓子の茶道体験は、目黒区の生徒にとっても日本の伝統文化に触れる貴重な時間となった。また、目黒区立第十一中学校の訪問では、第十一中学校の吹奏楽部の生徒が中国語と韓国語で歓迎の言葉と演奏する曲の紹介を行い、東京都中学校吹奏楽コンクールで演奏する曲を中心に一人一人が奏でる音の調和を披露した。さらに、第十一中学校の剣道部と目黒区剣道連盟による礼法と模範試合をとおして剣道を紹介し、その後、東城区の生徒を中心に竹刀を持ち、打ち込みを体験した。剣の道を究める厳しい雰囲気の中にも温かさもあり、竹刀をとおした心の交流が見られた。

ホスト区として、日本人の勤勉さ、礼儀正しさ、チーム力の表現に心がけた4日間。生徒は様々な交流をとおして日本人の素晴らしさを表現し、そして何より目黒区の選手同士の交流が深まり、チーム力を高めることができた。この目黒区の選手同士の交流が基礎となり、東城区と中浪区の選手との交流に発展させることができた。それぞれの文化の違いや言葉の違いを認識しようと努力すること、そして、それぞれの言語や共通の言語、そして表情を受け入れながら過ごした時間は貴重な体験であり、この年代での経験が将来の国際理解や国際貢献に生かされることを願う。

ホップ・ステップ・ジャンプ、3歩目の大きなジャンプにつながる大切な2歩目に関わり、その時間を共有できたことは大きな財産である。また、この貴重な体験をさせていただいた目黒区並びに関係機関の皆様には感謝の意を込めて報告とさせていただきます。

2 交流レポート

三区間交流事業 目黒区選手団 選手31名
(男子12名、女子19名)

目黒区立第一中学校 2年A組 和田上 瑛一郎

この三区間交流事業は僕にすごくいい経験をさせてくれたと思います。

初めて目黒区のチームで会った時は、恥ずかしくあまり話せなかったのですが、2回目、3回目と回数を重ねていくうちに話せるようになり、チームに慣れていきました。いつもは敵として戦っている強い選手たちが仲間となって隣で戦ってくれるのは、すごく心強かったです。

また、残念ながら負けてしまいましたが、韓国、中国との選手とも交流を深められたと思います。それはやはり目黒区の人たちのおかげだと思っています。みんなでご飯を食べたり、レクリエーションをして、言葉という道具がなくても楽しくジェスチャーで話し合ったり、面白いものを笑ったり、すごいものを見て驚いたり、最後まで全部は伝わらないこともありましたが、最初よりは思っていることが伝わったと思います。

試合をしている時、相手も同じ中学生なんだと思いました。ちょっと変かもしれませんが、韓国、中国の人たちは大人っぽくみえて、でも僕たちと同じように上手い出来ないことがあったりして、海を挟んで生きているけど、韓国も中国も日本も変わらないことを知ることができました。

この交流を通して、仲間との絆、言葉が通じない相手とのコミュニケーションの取り方、国を超えた友情を得ることができました。本当にかげがえのないものを得ることができてよかったです。

目黒区立第七中学校 2年B組 羽田 琉十

今回の4日間の三区間交流事業を通して、様々な経験ができました。4日間で中国と韓国の人とうまく交流できるか心配でした。1日目の会食の時は、あまり上手くコミュニケーションをとれませんでした。しかし、日を増すごとにだんだんコミュニケーションが取れてきました。特に3日目の区役所内での交流の時間が1番話せました。そこではグループに分かれ区役所内を回りました。その前にも中央体育館でバスケットボールをした事でより仲が深まったと思います。

バスケットボールの試合では、中国の選手は、身長が大きくパワーもありました。背は高かったけれど攻撃はしやすかったです。韓国の選手は、スピードが速く、当たりも強かったです。なかなか得点を奪えずに負けてしまいました。両方のチームに負けてしまいましたが、チーム内では声を掛け合い全力を尽くせたと思います。

今回の三区間の試合や交流を通じて、今後チームに戻っても経験を活かしていきたいと思います。

このような貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

今回の三区間交流会事業では、まず選手に選ばれた時の最初の練習では、まだ話したことのなかった他の学校の人との練習で少し気まずかったです。すぐに仲良くなれたので楽しくできました。練習を重ねていくごとにチーム内でも誰かが一人になることもなく良かったです。

韓国の練習を見た日は、韓国の選手とも少し仲良くなれて、言葉があまり分からなくても挨拶で仲良くなることができました。歓迎夕食会では最初はあまり会話がなかったけれど、こちらから質問をしたり、向こうから質問をしてくれたりして最後は仲良くなれました。練習試合ではアップを見ていてレベルが高いなと思いました。でも他の国と戦えることがとても楽しみだったのでわくわくしていました。実際に戦ってみてやっぱりレベルが高いなと思いました。3日目の東城区と中浪区の試合はとても面白かったです。

交流お茶会では日本を気に入ってくれたように感じてうれしかったです。僕もこのような体験をしたことがなかったので、体験ができて嬉しかったです。送別交流会も、3日目になると最初に比べてたくさん話をすることができました。

僕は交流事業で貴重な体験をさせてもらいとても嬉しかったです。

この行事を開いてくださった方、関わった関係者の方に感謝したいです。そしてこのような素晴らしいところで優秀を取れたことを光栄に思います。4日間で自分自身のためになることが多くあったと思います。それを家族や友達に伝えて、自分が感じたことを伝えていきたいです。もうこのような体験は2度とないと思います。4日間で学んだこと、仲間と協力してプレーをしたことを絶対に忘れないようにしたいです。そして先生方への感謝の気持ちも忘れないようにし、これからもそのことを心に置いて部活動・学校生活を過ごしていきたいです。

三区間交流事業を通じてたくさんのことを学ぶことができました。

僕は三区間交流事業に選ばれた時は、嬉しさと不安がありました。まず、他校の人たちと仲良くなることができるか心配でした。しかし、バスケットボールを通じて練習をしていくと、互いに話し合い、助け合えるようになりました。その心配はありませんでした。

まず1日目は、バスケットボールの練習と夕食会がありました。中国の練習風景は見ることはできませんでしたが、韓国の練習風景は見ることができました。やはり日本人と比べ身長が大きく、体がかっちりとしているのがとても印象的でした。

夕食会では、言葉が違うので話をするのが大変でした。けれども、ジェスチャーをしたり英語を使うことで相手に物事を伝えることができました。言いたいことが伝わるとなんだか嬉しい気持ちになりました。

2日目は、中国と韓国との試合がありました。みんなで全力でバスケットボールをプレーし、とても楽しかったです。結果は負けてしまったけれども、中国・韓国・日本のみんなの良いプレイを見ることができ良い体験になりました。試合をしていて心に残ったことがあります。それはプレー中に飛ばされてしまった時、中国・韓国・日本のみんなが手を差し伸べてくれたことです。この時、仲間がいる大切さを学びました。

3日目は、ミニゲームであるフリースロー対決をしました。みんな互いにボールを譲り合いながら楽しむことができて良かったです。

最後に、三区間交流事業に参加でき貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

目黒区立第十中学校 2年B組 堀内 宏基

僕は、今回の目黒区・東城区・中浪区の三区間交流事業はとても興味深かったです。

目黒区の選抜メンバーとして参加できたこと、また短い4日間の中で交流を深めるという貴重な体験ができたと感じました。この4日間とても充実していました。

1日目は、自分たちの練習をして、東城区と中浪区の練習を見学しました。自分たちの練習では、はじめは合わせにくいところもありましたが、後半はスピードをつけながら合わせられるようになりました。練習見学では、東城区・中浪区の二区はどちらも身長が高かったです。プレーもスピーディーで驚きました。

歓迎夕食会では、初めて外国人と関わるので緊張してなかなか話せませんでした。時間が経つにつれ、どんな人か分かり、少し英語で話をしました。とても楽しく会話ができました。

2日目は、試合をしました。

東城区との試合では、高いところで取られてしまいボールが下にきたときを狙わなければ取ることが出来ず苦戦しました。

中浪区との試合では、高さや速さがあり、東城区同様に苦戦し、どちらの試合とも大差をつけられて負けてしまいました。悔しかったです。けれども、その中で体験した事のない試合ができたので良かったです。

このような体験は、僕にとって興味深く記憶に残る2日目でした。

僕はこの貴重な体験と感じたことを基に学校の部活動に活かしていこうと思います。

目黒区立第十一中学校 2年B組 今井 心

私は今年の「三区間交流事業」のキャプテンとして参加させていただきました。周りからは「日本代表のキャプテンだぞ。」などと言われ少しプレッシャーを感じていましたが、キャプテンと告げられたその日の練習の時や、告げられる前の練習でもみんな自分から行動してくれたのでとても楽でした。正直キャプテンという実感が無くなるほどでした。今あげた内容以外にも、みんなフレンドリーでとても話しやすく、自分から話かけてくれる人もいました。自分から話しかけてこない人でも、私から話しかけるとすぐに心を開いてくれたので、すぐに良いチームメイトになることができました。プレー面では少し整っていない部分もありましたが、本番になると自分たちより体の大きい中国や韓国に対してリバウンドには行かず、下で取ることや走り負けないことを忘れず行って、少しは相手を苦しめることができたと思います。やはり自分たちより大きい人たちを止めるのは結構難しいです。

話を変えて交流について記します。私の中国の人たちの第一印象は大きくて少し恐かったです。中国の人たちとは少ししか話せませんでした。しかし、初日の食事会の時、隣にいた人とはたく

さん話をしました。英語でも話をしたし、通訳の方が中継ぎ役となってくれたりもしました。話していくうちに怖いなどという気持ちは消え、会話をすることが楽しくなりました。

韓国人の第一印象は大きくてフレンドリーでした。韓国の人たちは韓国側から話しかけてくれたので初めから話しやすかったです。韓国の人も中国の人たちと同様に、英語でも話しましたが、通訳の人は一度も中継ぎ役として入ってもらっていません。なぜなら韓国側の人たちが韓国語から日本語に翻訳するアプリを使って話してくれたからです。

私は「三区間交流事業」を通して他国の方々と触れ合あうことができたととても感謝しています。交流事業の関係者の皆様ありがとうございました。

目黒区立第東山中学校 2年B組 三笠 瑛史

僕は、今回の三区間交流事業を通して学んだことや出来るようになったことが沢山あります。最初は緊張していましたが、話しているうちに少しずつ仲良くなることができました。

最初の練習ではほとんど話せなくて緊張してシュートも全く入らなかったです。でも2日目からは少し話せたし、緊張も少しほぐれました。

中央体育館で初めての練習の日には、緊張はほとんど無くなってチームのみんなと話すことができました。その日に中浪区の人たちを初めて見たら、身長が高くて驚きました。夕食会では楽しく会話ができました。その次の日は試合でした。点差が開いても誰もあきらめずに戦っていたのでよかったです。その次の日は試合を見ました。どちらも強かったのでいい試合でした。昼食はみんなと仲良く食べて楽しかったです。夕食時は、獅子舞や傘回しが見れて、とても楽しく食べることができました。最終日は第十一中学校見学をしました。第十一中学校についてのビデオを見たときは、釣りのイベントなどが沢山あって驚きました。剣道の見学では、大きな声を出していてとても迫力があってすごかったです。

僕は、今回の交流事業を通してコミュニケーションをとることの大切さがわかりました。コミュニケーションをとらないと東城区と中浪区の人たちとは仲良くなれなかったし、チームの仲間とも仲良くなれなかったです。今回学んだことを活かして交流事業などに積極的に参加したいと思いました。

目黒区立第東山中学校 2年A組 高田 司

僕は、交流中の4日間とても充実した時間を過ごすことができましたと思います。まさか僕たちが、中国・韓国の選手たちと試合ができるなんて考えてもいませんでした。この目黒区・中浪区・東城区の交流ができたのも、関わってくださった大勢の人のおかげだと思います。区長をはじめ、議会の皆様、各協会、各連盟の皆様、各学校の校長先生・顧問の先生方に感謝したいです。

交流事業初日、初めて東城区、中浪区の選手を見たとき、あまりに身長が高すぎるので驚きました。しかし歓迎夕食会では、片言の英語やジェスチャーを用いて自己紹介をしたりとコミュニケーションをとることができました。

一方でバスケットボールの試合は2試合とも負けてしまい、自分もあまりプレーで貢献するこ

とが出来ず悔しい思いをしました。僕は、あまり身長は高くなかったので上手くボールをコントロールすることができず、沢山失敗をしてしまいました。この失敗を区の大会で繰り返さないように練習を沢山して、仲良くなった他校のメンバーに負けないようにしたいです。

中浪区、東城区の選手たちはとても親しみやすく、とても優しかったです。ぜひ機会があればまた会いたいと思います。

目黒区立目黒中央中学校 2年E組 寿美 仁一朗

僕がこの三区間交流事業で学んだことは、言葉が通じなくてもバスケットボールを通してコミュニケーションがとれるということです。僕たちは他国のチームとバスケットボールやジェスチャーなどを通して、コミュニケーションがとれました。これからも言葉が通じない人とも積極的になろうと思います。

楽しかったことは、まずバスケットボールの試合が出来たことです。僕は、三区間交流事業が決まってから1番楽しみにしていたことです。結果は2回も負けてしまいましたが良い試合が出来たと思います。2つ目は、フリースロー対決です。フリースロー対決では中国の人たちと韓国の人たちとフリースローが出来て楽しかったです。他には、昼食の花壇で食べたチンジャオロースがとても印象的でした。3つ目は、中国と韓国の人たちとお茶会です。お茶会で、僕の隣にいたのは韓国の人でした。お茶会で、隣の人と少し話すことができ良かったです。最後は夕食会です。夕食会では隣の人と沢山話をして良かったです。お寿司もとても美味しかったです。

僕は、この三区間交流を終えてとても良い経験が出来たと思いました。これからはこの三区間交流事業で学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと思います。今回のこのような交流事業はほとんどない機会なので、交流ができて良かったです。そして、来年の交流の試合は勝ってほしいです。

目黒区立目黒中央中学校 2年E組 平川 陽彩

自分は今回の目黒区・東城区・中浪区の三区間交流事業でいろいろなことを楽しみました。

1つ目は、海外の人とバスケットボールを通じて交流することでフェアプレーの大切さを学びました。それに互いに1つのボールを追いかけあうことも出来て楽しかったです。

2つ目は、バスケットボールだけでなく区役所でお茶の体験をして、その後に本物の区の会議の席に座りとてもふかふかでびっくりしたし、韓国人とも仲良くできて良かったです。

3つ目は、今回三区間交流事業の目黒区選抜の副キャプテンを任されましたが、チームに何も副キャプテンらしいことが出来ませんでした。でも、みんなと一致団結し、中国と韓国どちらにも負けてしまいましたが、とても楽しく、勝つだけが全てではないということが改めて大切と感ずることができました。多分もう2度とない経験だと思い、とても良い経験になりました。本当に貴重で楽しかった4日間になりました。

最後に、三区間交流事業の関係者の皆様、各学校のコーチ・監督の皆様、保護者の皆様、本当に感謝しています。このチームではあと1回、冬の目黒選抜との試合があるので、その試合では

そのメンバーでのゲームを全力で楽しもうと思います。4日間ありがとうございました。

目黒区立大鳥中学校 2年3組 林 央士

僕は、三区間交流事業の中国・東城区、韓国・中浪区との交流で楽しかったことが1つと学んだことが1つあります。

交流事業で楽しかったことは、東城区の人や中浪区の人、そして目黒区の人と沢山いろいろなことを話せたことです。東城区の人とは3日目ぐらいまで全然話せませんでした。ですが、韓国の人はとても話しやすく、すぐに話すことが出来ました。目黒区の人も最初はみんな全く話をしていなかったのですが、段々仲良くなり、沢山話をする事が出来ました。

次は学んだことです。交流事業で学んだことは、コミュニケーションはすごく大事だということです。東城区や中浪区の人たちは試合中にコートの中の人たちがよく声を出していたと思います。目黒区の人たちは声を出していた時もありましたが、声を出していなかったこともよくありました。目黒区の人たちは声を出していない時に息が合わずミスをする事が多々ありました。コミュニケーションはとても大事だと思いました。

三区間交流事業はとても楽しく、バスケットボールも上手くなれたと思うのでよかったです。来年もあると思うので、その時は今の1年生に一生懸命頑張ってもらいたいです。これから交流事業で学んだことをバスケットボールなどに活かしていけるといいと思います。

多摩大学目黒中学校 2年D組 三橋 隼人

三区間交流事業に参加して初日の練習のときはすごく緊張しました。

激励会でみんなが集まった時、周りに知っている人がいなく、誰にも話しかけられずに激励会は終わってしまいました。

第1回目の練習会では、道に迷って遅刻してしまったけれど、監督たちは怒らずに「練習に入りなさい。」と優しく接してくれて、怒られず少しホッとしました。その日の練習が終わったけれど、まだ誰ともコミュニケーションをとることができませんでした。

第2回目の練習会では、コミュニケーションをとろうと思い自分から話しかけたおかげで、その日の練習が終わった頃には、数人と話せるようになっていました。

三区間交流事業1日目は、最初に自分達が練習して、東城区、中浪区が見学に来ていました。中浪区の人たちが立った時、思っていた以上にみんな身長が高くてびっくりしました。東城区は中浪区よりも身長が高く、やっぱり海外の中学生は大きいなと思いました。

三区間交流事業2日目の第1試合は、東城区と試合をしました。その試合では、第2クォーターの途中から出場しました。第2クォーターでは緊張でいつもよりミスをしてしまいすぐに交代させられました。第4クォーターにまた途中交代で出場させてもらい、その時すごくいい流れだったので、流れを崩さないようにプレーして、残り2分くらいの時に3ポイントを決めて、少しはチームのためになれたのかなと思いました。試合は負けてしまいましたが、いい経験ができたなと思いました。

第2試合では、中浪区と試合をしました。第2試合も第1クォーターで出場しすぐに得点を決めることができました。その時、試合の流れが悪かったので、少しは流れを変えることができたのかなと思いました。この試合も大差で負けてしまいましたが、こんな経験はもうできないので、選ばれた時はすごく嬉しかったです。

目黒区立第一中学校 2年A組 松本 紗那希

交流会を終えて、最初私は他校の子ときちんと話ができるのか、迷惑をかけてしまわないかと不安な気持ちでいっぱいでした。でも実際参加をしてみると声をかけてくれたりして、とても嬉しかったしありがたかったです。

私が交流会に応募した理由はチームに貢献するためです。この機会に多くのことを学びたかったので、積極的に練習をしてみんなの足を引っ張らないように頑張りました。

1番頑張ったことは沢山コミュニケーションをとることです。みんなお互いに顔は知っていましたが、一緒にバスケットボールをしたことがないので良いプレイができるように話をしました。このことで話し合いは大切だと改めて感じ、学びました。

次に私が1番意識をしていたことは、周りを見て行動しリーダーシップを取ることです。私は背番号が4番で、1番小さい数字でした。学校順でそうなったとは思っていますが、せっかく初の4番だったのでみんなをまとめられるようにしたいと思い、常に周りを見ていました。私は、みんなをまとめる事が出来たのか心配でしたが、前田さんが「大丈夫だったよ。」と言ってくれたのでとても安心しました。

最後に交流会を通して多くのことを学ぶことが出来ました。学校、国の壁を越えてバスケットボールができて、実力も上がったと思います。今回のことを、チームに貢献できるようにして、どんどん強くなっていきたいです。

目黒区立第一中学校 2年A組 前田 芳子

私は三区間交流事業を終えて、学んだことが2つあります。

1つ目は、コミュニケーションの大切さです。1回目の練習会で緊張していたため、仲間と上手くコミュニケーションがとれず、個人プレイが多くなってしまいました。また、何度かパスミスをしてしまいました。しかし試合が近づくにつれて、自然とコミュニケーションをしっかりと取り合うことが出来るようになり、試合では仲間と楽しみながらプレーをすることができました。「自然と」と書きましたが、回を重ねることで他校の参加者と友達になれたので試合での声がけもスムーズに出来るようになり、コミュニケーションも取れるようになったのだと思います。

2つ目は、英語の大切さです。三区間でのレクリエーション大会や夕食会で、韓国の人や中国の人に日本語で話しかけても分かってもらえず、何度も「英語で話して」と言われてしまいました。そこで英語で話しかけるようにしようとしたのですが、全然上手くできず話が通じませんでした。また、通じて相手から何かを言われたとしても、それが何か分からず、韓国、中国の人と沢山話すことが出来ませんでした。そのため英語はどの国の人でも分かるため、とても大切な言語

だということを改めて学びました。そのため今後の英語の授業では、いつもこのことを思い出しながら勉強していきたいです。

三区間交流事業で、スポーツは世界の人々が楽しんででき、また人々を繋げるのだということを実感しました。また他の国々の文化や言語に触れることができ、とても貴重な体験になりました。今後はこの経験を活かして、バスケットボールや学校生活を過ごしていきたいです。このような事業に参加させていただき本当にありがとうございました。

目黒区立第七中学校 2年A組 田中 茉穂

私はこの三区間交流事業の話をご顧問の先生から聞いたときに、参加するか正直迷っていました。きっと知らない人ばかりだから怖かったのです。でも、そのことを母に相談すると参加した方がいいと強く言われ参加を決めました。

初めての練習の日でした。同じ目黒区なので見たことがある人が多かったのですが、友だちもいなかったのもとても緊張していました。緊張したまま練習に参加し、最後のゲームの時間になりました。体育館の横に座って男子の試合を観ていると、隣に座っていた同じチームの子が話しかけてくれました。最初は少し驚きましたが、その子のおかげで緊張が徐々にほぐれていきました。そして三区間交流事業がスタートしました。4日間あった活動はあっという間に過ぎてしまいました。レクリエーションでの交流や試合などを通して友情が深まっていきました。3日目に行われたお茶会の時には、少しですが韓国の同じ世代の子に話しかけ、会話をすることが出来ました。

私は今回この三区間交流事業に参加することをためらっていましたが、今は参加して良かったと思っています。目黒区だけにとどまらず他の国の同年代の人とも交流を持つことが出来たからです。きっとこのような経験はこの先ないと思います。だから今回の経験で学び感じたことをこれからの生活に活かしていきたいです。

目黒区立第七中学校 2年B組 宮本 凜

今回三区間交流事業を通して、目黒区から選ばれた選手、韓国、中国から来た選手の皆さんとバスケットボールを通して交流しました。国も違い言葉も違う中でどうやって話せばいいのか、最初はとても不安になりました。中央体育館で初めて中国、韓国の選手を見た時、とても驚きました。身長が高く彼らのバスケットボールは見ていてすごいと思うことばかりでした。ディフェンスのつき方は私のとは比べ物にならないくらい迫力があり、ドリブルはスピードがあり力強く、私もあのようなプレーをしたいと思うことが何度もありました。言語は違いましたが、簡単な「こんにちは。」や「ありがとう。」などの言葉を覚え、お互い言い合い、ジェスチャーを使ったり英語を使ったり、ちょっとずつでしたが4日間という短い間に、私は普通では出来ない素晴らしい体験をすることができました。

また今回の三区間交流事業は沢山の人の協力があったからこそその体験でした。私たちのバスケットボールを見てコーチをしてくださり、4日間ずっと私たちの安全を考え見守ってくださった先生方、保護者の方々、委員会の方々、その他沢山の皆さんの支えにとっても感謝しています。

目黒区の選手とは短い間でしたが友だちになることができ、一緒にバスケットボールをし、2回しかない練習の中、自分たちで新しいチームを作り上げました。幅広い中で沢山のひとと交流ができ、この体験を部活に持ち帰りその後の生活に活かし、よりよいバスケットボールができるように日々努力をして結果を残していけたらいいと思います。改めて三区間交流事業を行ってくださった方々本当にありがとうございました。

目黒区立第八中学校 2年A組 岡崎 李映

今回の三区間交流事業に参加するにあたって沢山の不安がありました。

まず1つ目は、目黒区の選抜選手と交流できるかということです。話しかけたときの選手の反応が気になることや、自分が相手からどう思われているかが怖くて、しかも皆、私より背が高く大人っぽくて仲良くなれないんじゃないかと心配でした。

2つ目は、三区間交流なので中国と韓国から選手が来るということです。中国語・韓国語の知識を持っているわけでもないのに、交流の仕方が分からず不安でした。相手が何を言っているのか分からないので最初はとても怖かったです。

3つ目は、チームのことです。Aチーム・Bチームに分かれて違う中学校の選手とプレーをするのは、それぞれがどのようなプレーの仕方をするか分からないので、合わせるのが大変だろうと思っていました。

実際に三区間交流に参加し終わった後は、不安だったことは全て吹き飛んでいました。

1つ目の区内の選抜選手と交流できるかということは、皆で仲良くしようと努力して声を掛け合っていたため、1日ごとにどんどん仲良くなっていきました。とても楽しい時間を過ごせて、皆同じ学校だったらいいのにと思いました。

2つ目の中国・韓国との交流は、言葉は通じないけれど、ジェスチャーや英語で頑張って会話することができました。しかも、相手が日本語を話していることもあったので驚きましたが嬉しかったです。

3つ目のチームについては、練習があるごとにその選手のポジション、プレーの特徴をお互い理解し合ってゲームができたのではないかと思います。チーム内の仲も良かったのでたくさん声を出すことができました。

今回の三区間交流事業で、交流することの大切さ、多国文化・相手を尊重することを学びました。とても良い時間を過ごせました。

目黒区立第八中学校 2年A組 大城 加津子

今回三区間交流事業に参加させてもらって、バスケットボールを通して他校の人たちと仲良くなれたり、レクリエーションや交流お茶会などで中国、韓国の人たちと会話や握手でかわすことができ、とても楽しい事業でした。プレーでは自分が中心のガードだったので頑張ったのですが、練習では少なかったファールが本番でファイブファールで退場してしまい、チームメイトにも迷惑をかけたなと思い反省しました。この機会での退場は辛かったのですが、他のメンバーがとても

頑張ってくれました。結果負けてしまったけれど仲間と楽しめたので良かったです。

この試合で学んだプレーや自分の悪かったところを部活で直していけるようにしたいです。そして今回の目的であった国際交流は、中国人とは上手く親しむことが出来なかったのですが、韓国人の人たちは英語やジェスチャー、相手が日本語に合わせてくれた会話でとても仲良くなることができましたと思います。特に交流が深まったと思えたのは混成チームでの交流お茶会とレクリエーションです。交流お茶会は、英語やジェスチャーで教えることができたのと、韓国人と「トモダチ」の握手ができたのがとても嬉しかったです。レクリエーションではお互いにボールを譲ったり協力してやることができました。送別交流会での1位を決めるじゃんけんは、負けてしまった人でも皆でハイタッチをしたり記念品のバッチをチームでポロシャツに付ける事ができ、仲を深められた気がします。

今回このような国際交流をバスケットボールを通じて行えたこと、代表として選ばれたことがとても嬉しく思いました。また開会式の言葉も代表として言えたことも1つの経験になりました。この貴重な機会学んだことをこれからの学校生活・部活に活かしたいと思います。

目黒区立第九中学校 2年B組 原田 彩那

「コミュニケーション」をこの4日間で学びました。韓国の言葉、中国の言葉、日本の言葉、なかなか他国の人に言葉が通じないことに苦戦しました。他国の人に通じないことで、ルール説明など自分たちでするときはジェスチャーなどを使って説明したりしました。そして、「中国の人は漢字を書けばだいたい伝わるよ。」って中国の通訳をしてくれる人に教えてもらいました。

私はこの4日間で、他国の人はもちろん目黒の人と話すことも最初はとても不安でした。三区間交流事業前日練習の時から話すことに不安をもっていました。事業が始まってからも不安でした。しかし、他の中学の人が話しかけてきてくれて、だんだんとみんなと話すことができるようになりました。

2日目に行われた試合では、10点差で負けてしまいましたが、とても楽しかった試合になりました。負けてしまって悔しかったが、同じチームの人の励ましの声などがベンチから聞こえてきました。Aチームの監督をしてくださった篠原先生はとても優しく「こうしたらもっといいよ。」など声をかけてもらえて、やってみようと思いました。私はAチームのみんなと篠原先生と戦うことが出来て良かったなと思いました。そして三区間交流事業前日練習、三区間交流事業1日目よりも友情がより深まったと思う瞬間でした。

この4日間で、「コミュニケーション」の大切さ、最初話さなかったが徐々に話しはじめられるようになり、最後には笑いが起こるまで話せるようになり、たくさんの人と話せるようになりました。「ジェスチャー」、他国の人に言葉が通じないことに不安をもっていました。ジェスチャーがあれば言葉が違ってても伝わることを学びました。この4日間でこの2つの言葉を学び良い経験をすることができました。なので、これからの学校生活で今回の三区間交流事業で学んだことを活かしていきたいと思います。

私は、4日間の三区間交流事業を含め、目黒区での練習なので、普段一緒に練習をしないみんなと練習ができてとても良い経験になったと思いました。それに目黒区のみんなだけでなく、韓国・中浪区、中国・東城区のみんなとも「三区間交流」という文字のとおり、たくさん交流することができたと思います。互いに応援して一緒にご飯を食べて話したりと、違う国の人でもたくさん話したりすることができてとても嬉しかったし、私は交流するってこんなに楽しいことなんだ！と4日間の三区間交流事業が終わった今でもずっと思っています。

この4日間の三区間交流事業が始まる前に目黒区のみんなとした練習で、私はいつもと違うメンバーで少し緊張していましたし、もちろん練習内容も普段と違うのでいろんな不安がありました。だけどチームが決まってからチームのみんなとすごく仲良くなれて、試合をした時も助け合いができてよかったです。目黒区の練習ではあまり話せなかった他のチームの人は4日間の交流でたくさん話すことができました。

2回という少ない練習だったけど、三区間交流事業の4日間では、みんな毎日会っていたんじゃないかというくらい仲良くできたのでとても嬉しかったです。

私のチームは本番で勝つことはできませんでした。毎回私のチームは練習では勝っていたのに本番で負けてしまいすごく悔しかったです。だけど今までの目黒区の練習から勝つことだけが全てじゃないと改めて実感しました。負けてしまっている練習の成果を出すことができたので良い試合ができたと思います。

今回の三区間交流事業では本当にたくさん良い経験をすることができました。この経験を活かして次の試合に挑みたいと思いますし、これからも他国の人と交流ができればいいなと思います。来年も私たちの後輩がこのような良い経験をしてきてほしいです。

私は三区間交流事業が始まる前まで、わくわくする気持ちもありましたが、不安に思う気持ちの方が大きかったです。しかし、初めてみんなと練習をした第1回目の練習に参加してからは、不安よりもわくわくした気持ちの方が大きくなりました。初めての練習で少しぎこちないところもあったけど、最後のほうにはお互いに声をかけあったりなど協力することができました。

韓国人と中国人の選手が日本に来た1日目の夜、初めて同世代の外国人と話すのでとても緊張していましたが、相手の方、通訳の方が積極的に話しかけてくれてとても良かったです。

2日目は女子の試合と、日本対韓国、日本対中国でした。女子の試合では点を入れるように頑張ったけど、入らなかったのちょっと悔しかったです。けど、試合には勝つことができて嬉しかったです。男子の日本対中国、韓国の試合では、日本はやっぱり身長が低いのかなと思いました。中国と韓国の人のプレーを見るのは初めてだったけどみんな上手でした。ドリブルがとても早くてシュートもたくさん決めていてすごかったです。

3日目の試合は中国対韓国でどちらが勝つかは全然わからなかったです。試合は中国が勝っていました。上手な国同士でもこんなに差がつくんだと感じました。その日の夜は最後の夕食会でした。もう明日で終わってしまうんだと考えるとすごく悲しかったです。でも、夕食会はとても

楽しくとても思い出に残りました。

最終日は第十一中学校でした。途中で韓国の人が帰ってしまったのは悲しかったけど、たくさん交流ができたのでよかったです。

三区間交流事業が始まる時は、ちゃんとできるかなとか、話せる子いるかなと不安でしたが、たくさんみんなと交流できたのでよかったです。とても思い出に残る交流でした。

目黒区立第十一中学校 2年B組 金澤 未久

私は今回の三区間交流事業で緊張もありつつ、楽しく中国、韓国、日本のみんなと交流ができたと思います。1日目の夕食会で、通訳を通してでしたが韓国や中国の文化や環境などが話すことができたし、少しだけ韓国語を教えてもらえたのでよかったです。混成チームでのフリースロー対決でたくさんシュートを決めることができたし、最後のジャンケンでも勝つことができたので嬉しかったです。

バスケットボールでは、最初の練習の時に自分はみんなの足を引っ張ってしまわないかと不安や緊張がありました。でも、練習や試合を重ねていくにつれ、少しずつ不安がなくなり、緊張もしなくなりました。練習の時のミニ試合みたいなのでは、ワンバウンドもたくさんとることができたし、即効でも点がとれたので嬉しかったです。セットの時はいつも学校の部活でやっていることが活かされたのでよかったと思います。

2日目の試合本番で少し緊張もありましたが、試合が始まってプレーをすると緊張は消えて、プレーに集中することができました。コートも広くディフェンスが辛かったけど、抜かれないようにつくことができました。でもリバウンドをとる回数が練習のときに比べて少なかったけど、そこから即効にもっていくことができました。チームの中で練習時に比べて声が出てたり、コミュニケーションもとることが出来たので良かったと思います。結果負けてしまったけど、今回の試合のことを次の練習や試合にうまくつなげられればいいと思います。この試合でよかったところを部活のチームに伝えたいと思います。そして、男子の試合では、チームワークが良くていいプレーがたくさんあったのですごいと思いました。勝っているチームも負けているチームも最後まであきらめずにプレーしていて良いと思いました。

目黒区立第十一中学校 2年B組 岡森 愛

私は今回の三区間交流事業で、仲間の大切さや自分に自信を持つことができました。

最初の練習試合などでは、ほとんど同じチームと話すことが無くずっと敬語でした。けれども三区間交流事業初日から自己紹介をするようになり、バスの中ではゲームなどをして仲良くなることができました。仲良くなってからはバスケットボールの事についても話し合うようになり、団結力がだんだんできていました。私は同じセンターの子と話し合ったりしてバスケットボールの事もとても勉強になりました。

今までは私のチームは5人しかいなく誰がうまいとか分からなかったのが、あまりバスケット

ボールのプレーについて自信がありませんでした。でも成功したら一緒に喜んでくれたり、自分のプレースタイルを褒めてくれたりして、とても自信になりました。なのでバスケットボールは仲間との絆がとても大切だと思いました。

中国人や韓国人との交流は最初ほとんど話すことが無く、ずっと日本人だけと一緒にいました。けれども通訳の方が話しかけてくれた事をきっかけに、自己紹介や日本の事を少し教えたりしました。それから会うと、名前を覚えてくれたり手を振ってくれたりして外国人とも仲良くなれました。バスケットボールの時には日本の旗をふるだけでなく対戦している方の旗を皆でふっただけで、相手のことも思いやることができました。

通訳の方がたまたまいなくて、英語で話した時もありました。あまりうまく言えなかったけど通じてとても嬉しかったです。

それに私は目黒区立第十一中学校見学の際に司会をやらせていただきました。外国人を前にして司会をやるのは初めてでとても緊張したけれど、目を少し上げながら話せてよかったです。

今回の交流では仲間の大切さや自分に自信が持てた以外に、外国人と英語で話せて交流できたので、とても良い経験が出来ました。

目黒区立東山中学校 2年A組 高橋 茜

私はこの4日間で沢山の思い出ができました。その中でも印象に残ったことがいくつかあります。

まず1つ目は、試合です。もともとは敵だった人達が集まって試合をしました。試合は声掛けが大事だけど、練習中は自分から声を出せませんでした。でも試合本番は、ベンチにいる時は応援を、コートにいる時はしっかり声を出せました。結果は負けてしまいましたが、とても良い経験になりました。

次に2つ目は、フリースロー大会です。他国の言葉は全く話せないで、コミュニケーションは取れませんでした。楽しく取り組むことができました。あまり活躍はできませんでしたが、2位という上位の成績を残せたので嬉しかったです。

最後に、送別会です。世界でも活躍している獅子舞さんが来てくれました。頭を噛んでもらえました。送別会でフリースロー大会の結果が発表されました。1位と同点で、ジャンケン大会をしました。私は1回も勝てなかったけど、とても良い思い出になりました。

この4日間で私は、国が違って言語も違う人とは話せないと思っていたけど、人はみんな心が通じていれば話せるんだということが分かりました。この活動をやるまでは、私は外国人がとても怖かったけど、少しは怖いという感情がなくなりました。なので、街中で困っている外国人がいたら積極的に助けに行けるようになりたいです。

目黒区立東山中学校 2年D組 矢嶋 華晏南

「ありがとう」、「シエ シエ」、「カムサハムニダ」、私はこの3つの言葉から沢山の事を学びました。三区間交流事業で一番とっていいほど聞いたこの言葉、試合の場面だったり、

夕食会だったり、色々な場面で、色々な感情で、色々なところから聞こえてきました。言い方が違っていても意味は同じ、感謝の気持ちのありがとうが沢山聞こえたこの4日間を私は一生忘れません。

1日目、この日一番沢山聞いたのは、「カムサハムニダ」でした。夕食会のときに韓国の方が笑顔で話しかけてくれて、とても嬉しかったです。

2日目に一番聞いたのは、「シエ シエ」でした。1日目はあまり話すことができなかったけれど、2日目は話すことができました。すれ違うときにも、「ニーハオ」と自分から話しかけてくれて、最後の夕食会のときも進んで話してくれて、交流することができました。

そして、私がこの4日間の交流の中で一番心に残ったのは、混成チームのフリースローです。ここで私は、国境を越えて協力することの素晴らしさ、感動を身に染みて感じました。言語が違っていても、文化が違っていても、必ず分かり合える何かがあるということ、ありがとうと笑顔は世界のみんなが分かり合える共通の財産だということに気がつきました。もしあの時話しかけていなかったら、さらにもしこの三区間交流事業に参加していなかったら、こんなに素晴らしい体験はできていませんでした。そして何より、とっても嬉しかったです。バスケットボールで繋がった1つの輪がこれからもっともっと大きくなっていくといいなと思います。

最後に、私が中国の方と韓国の方に一番伝えたいのは、バスケットボールをこれから一生懸命頑張りたいことと、ありがとうということです。

目黒区立東山中学校 2年C組 児玉 凜

今回の三区間交流事業で多くの思い出ができました。また、バスケットボールで自分の弱点で学んだこともできました。

バスケットボールで自分の弱点だと思ったのは、ディフェンスの手が上がっていないことと、リバウンドが取れないことでした。ディフェンスの手が下がっているとファールになったり、簡単にパスやシュートを打たれてしまうので気をつけたいです。リバウンドは、練習でもスクリーンアウトを意識したり、人より高く跳んだりして弱点をなくしていこうと思います。

私の4日間の三区間交流事業の思い出は多くありますが、その中で2つ忘れられないことがあります。

1つ目は、三区の人達と目黒区の人達と仲良くなれたことです。最初は同じ中学校のバスケットボール部の子達としか話せていませんでしたが、1日目の夕食会や練習で、多くの人達と話すことができました。韓国の人から韓国語を教えてもらったり、中国の学校のことを話してもらったり、とても嬉しかったです。

もう1つは、混成チームによる交流です。大縄跳びはなくなりましたが、フリースローでの三区混成チームでの戦いが嬉しかったです。私のFチームはDチームと同点で、じゃんけんで1位を決めることになりましたが、最後に2連勝できたのでよかったです。夕食会の最後までバッチをみんなで付けるといふ謎の約束があったのが面白かったです。また、その夕食会の最後に隣に座っていた韓国の男の子に「面白い子だね。」と言われました。

三区間交流事業に来年も参加したかったのですが、できないので残念だと思いました。日本、中国、韓国という国の線を越えて交流し、仲良くなれてよかったです。目黒区のみんなは試合で会

えるので、ずっと仲良くしていきたいです。中国と韓国の人達は多分二度と会えないので、この4日間の思い出を大切にしていきたいです。

目黒区立目黒中央中学校 2年B組 松添 芽生

私は、今回の三区間交流事業に参加できて本当に良かったなと思いました。

私は、最初の練習のとき、とても緊張していました。誰がどこの中学校でどんな人かもよく分からなくて、不安ばかりでした。でも、Aチーム、Bチームが発表されて、同じチームの人と話す機会が増えました。他校の子と、自分の学校のことを話し合ったり、名前を聞き合ったりして、練習や試合を重ねていくうちに、だんだんと互いの距離が縮まりました。そして、最終的にはこの三区間交流事業に参加した目黒区の全中学校の女子と友達になれました。本当に良かったです。また、最終日の紅白戦では、Bチーム内で築いた絆を活かしたチームプレーでAチームに勝つことができました。終わった後に、みんなで喜び合えたのが嬉しかったです。

今回は、第2回目の三区間交流事業で、日本に韓国と中国の方が来て交流をしました。言葉は違っても、バスケットボールを通じてコミュニケーションをとり、仲を深めることができたのでとても良かったと思います。また、色々なところについてみんなでご飯を食べたり、区役所や十一中に行って、目黒区のことや日本の文化を学べたりすることができ、とても良い時間を過ごせました。

今回の交流事業で出会った目黒区の女子達は、仲間でもありライバルでもある存在です。これから練習試合や大会などで戦うことがあるけど、互いにフェアプレー精神で正々堂々戦っていたら良いなと思います。また、他の国の人と大好きなバスケットボールを通じて交流できて本当に良かったです。今回のような貴重な体験ができて本当に嬉しく思うし、これからもずっとバスケットボールに関わって生きていきたいなと改めて思いました。

目黒区立目黒中央中学校 2年F組 慶 香海

今回の三区間交流事業に参加したことで学んだことが沢山あります。

1つ目は、バスケットボールを通していろんな人と関わって、交流することができました。中国や韓国の人達とは、言葉が通じないけど少し話せました。目黒区他校の人達とは、とっても仲良くなれて沢山話せました。言葉が通じても通じなくても、仲良くなることはできるということを学びました。

もう1つは、中国や韓国の人たちのバスケットボールの技術はとても進歩しているということです。技術も上でしたが、体格に大きな差があって本当に驚きました。日本や中国、韓国以外にも、バスケットボールをやっている国は沢山あって、もっともっとすごい技術を持った同じ中学生がいると考えるとすごいなと思ったし、自分ももっともっと上手くなりたいと思いました。

私は、この三区間交流事業で経験した沢山のことを、今後のバスケットボール以外のことに活かしていきたいです。そして、せっかく仲良くなった目黒区の友達とは、まだライバルとして関わっていくことができるので、もっと強くなって、目黒区で良い試合をしていきたいです。4

日間という短い時間だったけど、とても充実した時間を過ごせたので本当に本当に楽しかったです。

最後に、三区間交流事業を進行し、支えてくださった沢山の人に感謝したいと思います。このような企画を用意してくださって本当にありあとうございました。

目黒区立大鳥中学校 2年2組 辻 ほのか

私は今回の三区間交流事業が自分にとってとても良い経験になったと思います。その理由は2つあります。

1つ目は、普段とは違うチームでバスケットボールをしたことにより、バスケットボールの技術面はもちろん、コミュニケーション能力を高めることができたからです。交流が始まる前は、チームメイトと仲良くなれるか心配でしたが、練習のゲーム中に「ドンマイ」や「ナイッシュ」の声掛けをしたり、ゲームが終わるとハイタッチをしたりと自然とチームワークを高めることができました。他のチームの子たちとも、バスでの移動中や食事会を通して、とても仲良くなることができ本当に嬉しかったし楽しかったです。また、技術面では、普段できない相手との1対1や、背の高い子と戦うことで、自分の技術や知識を高めることができました。それを活かしたことにより、試合では優秀になることができ、本当に嬉しかったです。

2つ目は、東城区、中浪区の中学生と交流できたことです。言葉の壁を乗り越え、バスケットボールを通して交流したことは本当に良い経験と思い出になりました。女子は、東城区や中浪区の子たちと試合することはできませんでしたが、男子の目黒区対東城区、中浪区との試合は見応えがあり本当に面白かったです。東城区は高い身長を活かし、中浪区はレベルの高い1対1を活かすなど、それぞれの区間に特徴がありました。

最後に、今回の三区間交流事業を企画し、成功させるために携わってくださった三区間の職員の皆さんありがとうございました。この交流で学んだ様々なことを部活動や中学校生活に活かしていきたいです。そして、8月25日のシード権大会に繋がりたいと思います。

目黒区立大鳥中学校 2年2組 類家 亜実

三区間交流事業お疲れ様でした。そして、先生方ありあとうございました。おかげで楽しく三区間交流事業を終えることができました。

私が一番心に残ったのは、試合をしたことです。残念ながら、中国や韓国の皆さんとは戦えませんでした。とても楽しかったです。私たちのチームは負けてしまいましたが全力で戦うことができたと思います。一番最初の練習の時は緊張していて他校の人とは話せませんでした。でも、どんどん会っていくうちに、いつの間にか仲良くなっていました。中国と韓国の人とは、言葉が違うけど仲良くなれて嬉しかったし、日本の文化を知ってもらえたと思います。私も中国や韓国の文化を知りたいと思いました。最初、中国や韓国の方は身長が高くて、同じ年には見えません

でした。でも、話しているところを見たときだけ同じ年に見えて、親しみやすかったです。

もっとみんなと一緒にいたかったです。夏休みのいい思い出になりました。次の学年の子も楽しめたらいいなと思います。この三区間交流事業で学んだ「人とのコミュニケーション」を活かしてこれからのバスケットボールを楽しんで取り組めるようにしたいと思いました。バスケットボールの他にも、日本の文化を知ってもらえて嬉しかったです。三区間交流事業を開いてくれた方々、ありがとうございました。

多摩大学目黒中学校 2年A組 浅見 旬凜

5月の中旬頃、廊下を歩いていると顧問の先生から声をかけられました。その内容は、目黒区が主催する目黒区・東城区・中浪区の三区間交流事業に参加してみないかというものでした。私はその時初めてそのような交流事業の存在を知りました。同じ目黒区そして東城区・中浪区の人たちとバスケットボールができるなんて、こんなにありがたい話はないと思い、迷うことなく「出たいです」と返事をしたのを今でも覚えています。

三区間交流事業に参加できることになり、たくさんの人のすごい技が観れると思い、すごく楽しみでした。しかし、不安もありました。私は人見知りなので、初対面の人と仲良くなれるのか心配でした

その心配もすぐに消え、初日の練習から目黒区の女子たちと打ち解けることができました。それから24日から27日までとても楽しく、1日1日が濃い時間でした。特に印象に残っていることは、目黒区の女子がA・Bチームに分かれてした試合です。その試合の中で、私はディフェンスを抜いてシュートを入れることができました。シュートが決まった時はすごく嬉しく、普段からもっと走り練習も頑張ろうと思えました。試合は結果負けてしまいましたが、自分の改善点もわかり自己分析をすることができました。

この交流を通して、私は多くのことを学ぶことができました。東城区・中浪区の生徒とのコミュニケーション、同じ目黒区の学校の生徒との交流、そして自分自身のバスケットボールの技術の向上など貴重な経験をさせていただきました。このような機会を与えてくださり心から感謝しております。今回の貴重な体験を今後の生活にも生かしていきたいと思います。

